研究室紹介

静岡県農林技術研究所 茶業研究センター 茶環境適応技術科

静岡県農林技術研究所茶業研究センターは，平成30年に創立110周年を迎え，日本一の茶生産地である静岡県の茶業を支え続けてきた歴史のある研究機関です。明治41年（1908年）に静岡県立農事試験場茶業部として発足し，昭和12年（1937年）に県立茶業試験場として独立，昭和32年（1957年）には静岡県茶業試験場として改称された後，平成19年（2007年）の試験研究機関の再編統合により，現在の静岡県農林技術研究所茶業研究センターとなりました。

当センターは，静岡県の代表的な茶産地である牧之原台地（菊川市）にあります（図-1）。周辺は茶畑に囲まれ，当センターからの直線距離で約4 km先には富士山静岡空港が，同約3 km先には農研機構 果樹茶業研究部門茶業研究領域（金谷茶業研究拠点）が位置しています。

当センターの茶環境適応技術科は，土壌肥料担当の研究員2名と病害虫担当の研究員3名（虫害2名，病害1名）で構成されています。また，病害虫研究室には，虫の飼育や各種試験のサポートを担当する敏腕の研究補助員2名も所属しており，合計5名（図-2）で静岡県茶業における病害虫研究に励んでいます。

当研究室ではこれまでに，その時代ごとに問題となってきた病害虫の生態や防除法を研究し，生産現場における茶の安定生産に貢献してきました。化学合成農薬の普及に伴って，これまでに各種病害虫に対する防除試験が数多く実施されてきましたが，薬剤抵抗性や天敵の減少等の問題も顕在化したため，こうした情勢に対応しつつ各種の研究を進めてきました。現在，静岡県の茶栽培で主流となっている土着天敵の保護・利用を念頭においた防除体系の普及は，過去の研究の賜物であると言えます。

図-1 ドローンによる当センターの空撮画像
中央下の施設群が当センター，その周辺が試験圃場．
ドローン操縦・撮影者：元当センター（現静岡県立農林大学校）・小澤朗人博士．

図-2 病害虫研究室メンバー（平成30年度）
手前左から，吉田達也研究員（新規採用，虫害），鈴木幹彦上席研究員（病害），内山 徹上席研究員（虫害），奥左から，滝本理枝（研究補助），住川純子（研究補助）．
ドローン操縦・撮影者：当センター・亀山阿由子研究員．

平成30年現在，実施している研究課題は五つあります。病害分野では，①省力的かつ効率的な病害防除技術の確立，②赤焼病菌の生態特性および発病機構の解明について研究を進めています。虫害分野では，③ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明と抵抗性遺伝子診断法の開発を進めています。また，病害・虫害に共通する課題として，④茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証，⑤ドローンの空撮による病害虫診断技術の開発に取り組んでいます。以上の研究課題以外にも，数多くの新農薬実用化試験を毎年実施するとともに，生産現場からの要望に応じて病害虫の薬剤感受性検定なども行っています。また，当研究室には生産者や農協等の技術指導員からの電話問い合わせが非常に多い（1日当たり複数件が普通で，ゼロ件の日は珍しい）だけでなく，突然の訪問も少なくないなど，慌ただしいながらも現場に密着した研究機関として重要な役割を担っていると感じています。

（上席研究員　内山　徹）

〒439-0002　静岡県菊川市倉沢1706-11
TEL　0548-27-2885

植物防疫